

# 11 村民防災ブロック会議と実動訓練

取組分類	参加体験	行動特性	デジタル
自治体	熊本県球磨村		

問合せ先：熊本県球磨村 総務課

## 取組概要

- 村を複数のブロックに分け、**出水期までに実施すべき取組を話し合う「村民防災ブロック会議」**を実施し、**村民が自らが考えた取組を実践**している。
- **会議で話し合った内容を発展させた実動訓練「全村民が避難について考える日」**を実施している。

## 取組のきっかけ

- 球磨村は、人口3,179人、高齢化率47.2%（令和4年2月現在）で、一級河川球磨川の中流域にあり、急峻な山谷沿いに79の集落が存在している。
- 令和2年7月豪雨をはじめ、長年にわたり球磨川水系の水害被害を受けており、村民が自ら考えて避難することが必要として、取組を実施している。

## 取組のポイント

- 年間を通じて住民の防災意識を向上させることを目指して、特に4月から梅雨に入るまでの約2カ月半の間に、住民が参加する防災イベントを集中的に実施。

R4.4.12 村民防災ブロック会議

R4.5.15 全村民が避難について考える日

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
防災意識維持期	防災意識高揚期	防災意識高揚期	完成期	完成期	災害対応期（高い防災意識を堅持）	災害対応期（高い防災意識を堅持）	災害対応期（高い防災意識を堅持）	災害対応期（高い防災意識を堅持）	災害対応期（高い防災意識を堅持）	防災意識維持期	防災意識維持期

### <村民防災ブロック会議>

- 村を複数ブロックに分け、出水期前までに実施すべき事項をブロックごとに話し合う会議を実施している。
- 令和4年は約150名が参加し、**自分の居住地は安全か否か、避難するとすれば携行品及び避難場所はどこか、どの様に避難するのか**等、住民一人一人が考え話し合った。

▼ブロック会議の状況



### <全村民が避難について考える日>

- **避難について住民自らが考え実践すること、出水期前に防災体制を確立することを目的に実動訓練**を実施している。
- また、ブロック会議で話し合った内容の振り返りも実施。
- 令和4年は、住民発案の訓練として、役場から高齢者等避難、避難指示を順次発令し、住民は集落の災害特性に併せた行動を実施した。

▼実動訓練の様子



## 取組の効果

- 令和4年台風14号では、自然現象、防災無線等の行政からの指示のほか、地域の消防団、自主防災組織等呼びかけ、特に自主防災組織等が防災行政無線を利用して自主的に避難を呼びかけた。